

亜熱帯地域における夏秋期野菜、花きの安定生産システムの開発

1 中核機関・研究総括者

沖縄県農業試験場 高江洲 賢文

2 研究期間

2004～2006 年度（3 年間）

3 研究目的

沖縄県では、台風・病害虫対策は農業生産上の大きな課題である。現在防風・防虫対策用として、従来型の低コスト防風施設（平張施設）が普及しているが、構造上栽培できる作型が限定されている。本課題ではこの施設の改良型を開発するとともに、夏秋期野菜の安定生産技術とキクの周年生産を可能にする夏秋期キクの生産技術等を開発し、亜熱帯地域における野菜、花きの安定生産システムを開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 低コスト防風施設（平張施設）の改良と周年利用技術の開発（沖縄県農業試験場、沖阪産業（株））
平張施設の周年利用型施設への改良と耐風性の解明、および温度制御技術を開発する。
- ② 夏秋期野菜の生産技術の開発（沖縄県農業試験場）
夏秋期野菜の適応性品種を選定し、高品質多収安定生産技術を確立する。
- ③ キク周年生産システム及び品種の開発（沖縄県農業試験場、（株）沖縄県種苗センター、（株）サザンプラント）
夏秋期生産に適するキク品種を開発し、作型短縮技術や直挿し省力栽培技術等の確立により、キク周年生産システムを開発する。

5 目標とする成果

低コスト平張り施設を夏期高温、冬期低温・降雨にも対応できる周年利用型へ改良するとともに、野菜、花きの夏秋期栽培技術を確立する。この技術を従来型の冬春期栽培と組み合わせることにより、施設の利用効率を高め、自給率の向上と生産拡大及び農家所得の向上が図られる。